

# 五島市図書館友の会だより

第8号(2017.)

## 図書館への想い

私は子供の頃、地区の異年齢の子ども達と集まって、外で遊び回るのが楽しくて、本に興味を持っていませんでした。

しかし、子供が生まれ絵本がとても素晴らしい物だと知り、子供に読んであげるためせっせと図書館に通うようになりました。私は、子供が大きくなるにつれ、自分の好きな本を見つけ、借りて読むようになりました。

図書館では「何冊借りてもただ！」読みたい本がないときは、他の図書館から借りてくださり、待ちさえすればどんな本でも読むことができるので、ありがたい事です。

ところが最近悲しいことに、本と目の微妙な距離が必要で、避けられない老眼になり、夜、本を読むのが億劫になってきました。

でも、この前図書館職員の方から、大きな字で書かれた本の棚をおしえてもらいました。「ああ、視力が弱っても、まだまだ読める本はあるのだ」と、少し嬉しくなりました。

私はボランティア活動の為、毎週図書館3階を利用させてもらいますが、年と運動不足なのか荷物を持っての階段上がりは、きつくて「はあはあ」言います。

また、杖をついた年配の方で「仲間に入りたいけど、階段を上れないから行けない」と断念したり、小さい子供が一生懸命階段の上り下りするのを見かけると「なんと不便な階段だろう」と思います。他の図書館視察をしたとき、平屋建ての広々とした館内を観て「誰でも利用しやすいこんな図書館が欲しい」と思いました。これから、自分がどんどん年を取っていくのを考えると、行き場所として「図書館にでも行こうか！」と言えるような、ゆっくりできる憩いの場所であって欲しいものです。[リレーエッセイ7]



もこもこのおはなし会

市川 和枝（おはなし もこもこ代表／五島市図書館友の会役員）

## 最近の活動から

### ■大盛況 「第三回古本まつり」



290名が来館。17,103円のカンパ等がありました。友の会の活動費として使わせてもらいます。本を提供してくださった方・お手伝い頂いた方・海陽高校ボランティアの皆さん、ありがとうございました。

### ■「アートひろば」展示作業をしています。

掲示期間は2カ月間（展示して下さる方を募集中）



←1月～2月の掲示は  
「しおりコンクール」  
子どもの本ネットワーク協議会  
五島っ子主催 応募412名

平成29年3月～4月の掲示は→  
「絵と俳句とテレフォンカード」  
高井良 武さん

### ■紙上「アートひろば」



# 「色数多咲く紫陽花に蝶ぞ舞う」

片山 寛葉

総会報告

時：平成 29 年 4 月 23 日

所：図書館 3 階

参加者 17 名

- 1 28 年度活動報告・会計報告がなされ承認されました。
- 2 29 年度活動予定が承認されました。
  - 1・2 について詳細がお知りになりたい方は「友の会」役員までご連絡ください。
- 3 大窄館長による「新図書館建設計画」についての説明
  - ・H28/2 月～12 月の図書館市民アンケートは 3,838 枚集まる。
  - ・アンケートによる充実して欲しいサービスとして「資料・本の充実」「駐車場」「閲覧室」「インターネット環境整備」「公民館図書室との連携」「学習室の整備」「視聴覚コーナー」等がある。
  - ・H28/11 月より「新図書館基本計画検討委員会」が開催されている。
    - 全 6 回開催予定で、現在までに 3 回開催。委員は 15 名
    - 今夏ぐらいまでに「基本計画」をまとめ、住民説明会・市議会決議等を受け
    - H30 基本設計・実施設計策定
    - H31 建設工事
    - H32 年度の開館を予定している
  - ・財源として過疎債を予定している。



## 参加者からの意見

- ・今後、住民説明会や議会がポイントになると思う。
  - ・図書館として最低必要なものは整備していくべきだ。
  - ・住民説明会では「図書館とは何か？」を理解してもらうことが大事。
  - ・これから人口が減るのに、と言う意見もあるが、今の私達（シニア世代）が「豊かな福祉社会」を体験・学習・ボランティアをするためにも一定の図書館があって欲しい。
  - ・伊万里・武雄の図書館を見学した。ボランティアとしてもっと活動をしよう。
  - ・午後 6 時閉館は早すぎる。
  - ・前回の図書館建設計画は 13 億円という数字だけが先行し、図書館の役割等が浸透しなかった。ざくばらんに話す場が必要。
- 4 その他の意見
    - ・名簿が欲しい。（行事等や入会を誘いたい）→P4 に名前のみ掲載
    - ・読書会の案内と本は読んでいなくても参加できるのか？→案内は図書館内に貼付しており、会員さんには封書・ハガキで連絡している。参加可能。





「古本まつり」は本のあまりの重さに、スタッフ一同、準備段階からへろへろ。でも当日「たいしたことはないと思ってきたが、どうしてどうして」と手に『孔子』の本。「夏目漱石を読みたいけど何から読めば？」と高校生「毎回、富江からバスできます」と、両手に山ほどの本。やっぱり、続けることに、意義がある。

K/S